

安倍首相のおごりとはぐらかしの言葉

翁長(前)沖縄県知事が沖縄の米軍基地の危険・問題を訴えに上京しても、安倍首相は門前払いし、投げ返した言葉は「粛々と進める」であった。この相手を見殺しにしたおごりの言葉はあるとき突然消えた。きっかけは翁長知事の「安倍さんが“粛々”というたびに、沖縄の人は反発していますよ」の一言である。「粛々」だけではなく、安倍首相が好んで使う言葉には、直ちにやめさせたいはぐらかしの言葉がいくつかある。

たとえば、「ていねいに」である。問われていることはウソや無策であるのに、ていねいな説明が足りないから「誤解」されたと、はぐらかす。加計学園の認可では、「規制」の意義をはぐらかして、「岩盤に穴」がさも功績のようにうそぶいている。

このようなはぐらかしをやるならまともな議論ができるわけがない。「改憲」などに必要な議論を野党が拒否していると非難するが、議論ができない状況をつくっているのは安倍首相本人である。このとき彼は「しっかりと」を添えることも忘れない。「ていねいに、しっかりとやっている」といわれると、ウソや無策を指摘するほうが不適切であるかのような雰囲気が醸されることを狙っているのであろう。この「ていねいに、しっかりと」はぐらかすことは他の議員や小池都知事などにも伝染してしまった。

このような政治家を選んでしまったのはわれわれ有権者の責任である。これを反省するとともに、やるべきはまともな議論をつうじて、持続的で公正な社会と環境のための政策を練り、実施することである。

瀬戸昌之(日の出の森・支える会)



参院選で「れいわ新選組」が2議席を獲得！

2019年7月に行われた参院選で「れいわ新選組」が2議席を獲得し、政党要件を満たしました。政党になったことにより、日々の政治活動がやりやすくなるだけでなく、マスメディアへの露出が増えるようになります。このことから一般への認知度がますます増えるようになるでしょう。

「れいわ新選組」が国会に送り込んだ議員は2名とも重度障害者です。重度障害者の国会議員が誕生したことにより、国会のバリアフリー化が進みました。それだけでなく、現在の国会のあり方そのものが問われることになっています。